申渡候間、右最寄名主共江申渡、兼て髪結共江茂爲心得置候様可致、

右之通從町御奉行所被仰渡候間、最寄不洩様早々可申通候、

寅五月

右之通、被仰渡奉畏候、以上、

市中取締掛り　本町三丁目　名主　文左衛門外二人

〔御觸書集覽二〕天保十三寅年十月廿一日

市中取締懸り　名主共

一市中場末町々髪結床之内、客込合候節ハ、下剃と唱、妻ニ手傳爲致候も有之趣ニ候、女共相應之手業も可有之處、右様之手助ケ爲致候ハ、渡世柄ニも寄可申儀、右ハ男女之差別茂薄く、風俗にも拘り候儀、早々相止可申候、若相背候者有之候ハヾ、吟味之上、急度咎可申付候、此旨渡世之者共江不洩様可申聞候、

右之通、被仰渡奉畏候、仍如件、

寅十月廿一日

市中取締懸り總代　深川熊井町　名主　理左衛門

牛込改代町　同　三九郎

小石川金杉水道町　同　市郎右衛門

〔諸問屋再興調十五〕四月朱書○嘉永四年十九日御直上ル、翌廿日御下ゲ、同廿一日朱書下ゲ札致し上、翌廿二日思召無之御下ゲ、

髪結職之もの、御用筋相勤候起立之儀、寛永十七辰年六月、其頃之御奉行神尾備前守殿、朝倉仁左衛門殿、御番所江被召出、町々御入用橋、左右六町之髪結江見守被仰付、燒印札御渡被下置候由申傳、丑年御改革前迄、稀に左之通札所持致し候者有之候由、尤其節古燒印札之分も、町年寄江相納